

# 令和7年度 第3回学校運営協議会

1 日 時 令和8年2月24日(火) 午後3時から4時30分まで

2 場 所 静岡県立掛川西高等学校 大会議室

3 次 第

(1) 校長挨拶

(2) 議事

- ・12月アンケート結果、学校自己評価、学校関係者評価について
- ・令和8年度学校経営計画について

(3) その他

4 出席者

学校運営協議会委員(敬称略)

井上 美千子	しずおか共育ネット 代表理事	5年目
岡田 智行	掛川市立北中学校 校長	2年目
瀬島 義孝	静岡新聞社掛川支局 支局長(人事異動により8/1着任)	1年目
小澤 哲夫	静岡理工科大学 統括副学長	2年目
相場 啓嗣	掛川西高等学校PTA会長	1年目

※ 年数は、学校評議員の年数も含む

本校職員

大石 正佳(数)	校長
岡野 哲也(理)	副校長
吉野 友三(保体)	教頭
小嶋 唯起子	事務長
大橋 雅則(数)	教務主任
松浦 弘季(数)	生徒指導主事
青木 紀文(国)	研修主任

5 欠席者(敬称略)

石山 基和	掛川市役所企画政策部 企画政策課長	1年目
-------	-------------------	-----

※ 年数は、学校評議員の年数も含む

## 令和7年度第3回学校運営協議会・議事録

井上：議事の1、12月アンケート結果、学校自己評価、学校関係者評価について教頭から説明がある。

教頭：12月アンケート結果、学校自己評価、学校関係者評価について説明。その後、各分掌課長から説明。

井上：12月アンケート結果、学校自己評価、学校関係者評価について質問・意見を伺いたい。

小澤：学校の目標設定が高く設定されていると感じる。生徒アンケートにおいて、「そう思う」と回答した生徒が40%を超えている項目が7割程度ある。これは、かなり高い数値と言ってよいのではないかと。また、他教員の授業参観は、どのように実施しているか教えてほしい。

副校長：個別に積極的に実施するようにお願いしているが、オープンスクールや授業公開週間に合わせて参観する先生もいる。また、管理職による授業参観も行っている。参観ではないが、職員室等で授業の進め方等について話し合う様子もよく見られる。

井上：先生方の働き方改革についての現状について知りたい。

副校長：今年度、年間計画を立てる際に、期末試験の翌日を生徒家庭学習日とし、採点や成績処理に充てる工夫をした。また、デジタル採点も積極的に取り入れ、採点作業も効率は上がっている。昨年度と比べても、勤務時間が労働は減少傾向にある。一方で、早く帰ってもらえばストレスが軽減するものでもなく、やりがいとのバランスも重要だと考えている。

岡田：自転車通学のヘルメット着用につて、高校でのルールの変更等はあるか。

教頭：県からの通達があり、来年度からの自転車通学許可条件にヘルメットの購入を義務付けることとなった。ただ、ヘルメットを着用していないことでの罰則等は考えていない。

相場：生徒からすると、周囲のレベルも上がり、勉強の難易度も上がる中で、「授業がよくわかる」等の質問に対し、「そう思う」と回答するのは簡単ではないのかもしれない。また、今後中学では、部活動は地域移行されていく。今後、高校での部活動に対する取り組みに変化はあるのか。

教頭：今年度、部活動検討委員会を立ち上げ、検討を進めてきた。県の示す基準より、本校は部活動数が3～4多く、その現状を改善するため、今年度末までに訂正な数にまで統廃合を行う。来年度以降についても、中学や他校の様子を注視しながら、部活動の在り方について検討を続けていく。

瀬島：学習時間について、平日家庭学習時間4時間以上と回答した1・2年生がかなり少数である。学校としては、どのようにみているか。また、教員と生徒の間には、身だしなみやCTの活動についての回答にかなり開きがあるような感じるがどのようにみているか。

各課長：1・2年生は部活動に時間をとられたり、塾で学習したりという中で、家庭学習時間4時間以上はかなり難しい現状があると感じている。身だしなみについては、防寒着の校則に変更があったため、統一感がなくなり、教員側と生徒側とのあいだに認識の違いが出てしまったかもしれない。CTについては、教員はカリキュラムマネジメントの視点で見えており、プログラムとしては整備されていると考えている傾向があるが、生徒のアンケートにも反映されるよう、さらなる質の向上を目指していく。

井上：議事の2、令和8年度学校経営計画について校長から説明がある。

校長：令和8年度学校経営計画について説明。

井上：今年度、大学共通テスト6教科7・8科目型の受験割合が昨年比－7%という結果にもかかわらず、来年度も90%以上を目指すのか。

校長：今のところ、変更するつもりはないが、生徒の考え方も変わってきているため、時間をかけながら検討していきたい。

瀬島：ワークライフバランスについて、今年度、具体的な退勤時間を成果目標から削除したのに、来年度の学校経営計画で20:00までに退勤すると変更するのはなぜか。また、定時退勤日は、設定しなければならないのか。

校長：県の方針を取り入れた。まず、職員に県の方針を知ってもらい、来年度の様子をみながら検討していきたい。全ての学校で設定しているわけではなく、成果が上がっている例ばかりではない。メリハリのある勤務を意識させていきたい。

小澤：勤務時間をどのように把握しているのか。また、スクールポリシーの作成に当たり、生徒が関わることはあるのか。

副校長：勤務時間は、勤務時間管理システムというものがあり、パソコンの起動時とシャットダウンに合わせて時間が記録され、勤務時間を把握することができる。

校長：生徒も関わるのが理想ではあるが、今回の見直しではできなかった。決定したものをクラス掲示することで、生徒との共有はできている。

井上：本日は、貴重な御意見ありがとうございました。

以上